

会議記録			
会議の名称	予算特別委員会 総務文教分科会	会議場所 第3委員会室 担当職員 井上	
日時	令和3年3月15日(月曜日)	開議 午前10時00分	閉議 午前10時20分
出席委員	◎木村 ○浅田 三上 山本 松山 小松 齊藤 石野		
理事者出席者			
事務局	井上事務局次長		
傍聴者	市民 0名	報道関係者 0名	議員0名

会議の概要

10:00

[市長質疑項目確認]

<木村委員長>

市長質疑項目の確認をさせていただく。5項目上がっている。1番から意見をお願いする。

<齊藤委員>

市長の考えは変わらないかもしれないが、市長に質疑するということで、これでよいのではないか。産学官がうまくいくように考えていったほうがよい。世界は電気自動車に向かっていっているので、今のところ水素まではいかないのではないか。水素ステーションは、京都市の南のほうまで、峠を越えて行かなければならぬ。災害などが起ったときに給油できないので、いかがなものかという意見が出たので、質疑をすればよいと思う。

<松山委員>

水素自動車でなければならない理由が聞きたい。京都先端科学大学との連携については、産業建設常任委員会でもいろいろと議論されている。今後、産学官の連携の中で進めることになれば、地産地消になると思うので、今後の話として市長に聞きたい。水素ステーションがない中での運用については、課長から説明があったが、なぜ、今、水素自動車でなければならないのかということが聞きたい。

<木村委員長>

水素自動車には、補助金が出る。プリウスもそうであったが、補助金が出れば、何年間は乗らなければならないという縛りは出てくると思う。意見がなければ、このとおりとする。

2番、広報経費について、意見はあるか。なければこのとおりとする。

3番、SDGsに関する経費について、意見をお願いする。なければこのとおりとする。

4番、人権啓発推進経費・地域交流促進経費について、意見はあるか。

<松山委員>

「新たな市民ニーズを計画・実施する考え」を、「市民ニーズを調査し、計画・実施する考え」とすればどうか。

<三上委員>

今実施している事業や施策が、今の時代に合っているのかという意味であったと思うので、新たな市民ニーズをもとに計画・実施するとか、ニーズに応えるという中身にしたほうがよいと思う。

＜山本委員＞

新たな市民ニーズを把握しとすればどうか。ただ、事業内容を変えるのが先なのか。先に新たな市民ニーズを把握して、人権啓発活動や文化センターの事業内容を見直し、実施する考えはないかとすればどうか。

＜三上委員＞

利用者の市民ニーズはもちろん把握しなければならないが、基本的な今の時代の流れの中で、今、人権啓発事業としてやっていることが非常に狭い。旧態依然としたところがある。時代や今のニーズに合ったという意味で捉えてほしい。市民ニーズだけを調査して変えるということではないというのが私の意見である。

＜木村委員長＞

市民ニーズを把握して、見直して、計画を実施する考えはないのかということか。

＜齊藤委員＞

「人権啓発活動や文化センターの事業内容は」としないと、「事業内容を見直し」では何のための見直しかわからない。開かれた市民ニーズを把握して、見直していくとしたほうがよいのではないか。

＜三上委員＞

市民ニーズは、分かっていないわけではなく、分かっているのにしないことが多い。

「人権啓発活動や文化センターの事業内容は、より開かれた、時代や市民ニーズに基づき、見直してはどうか」としてはどうか。市民が何を考えているかだけではなく、社会が求めるもの、時世に合わせて見直してほしいという意味である。

＜木村委員長＞

そのように修正させていただく。

――全員了――

5番、生涯学習推進経費について、意見をお願いする。

＜三上委員＞

このようにしておけば、改修そのものの視点と、指定管理者も含めた今後の活用の視点と、いろいろな切り口で質問できる。それぞれが再質問すればよいのではないか。

＜木村委員長＞

確認させていただいた内容で、全体会で発表させていただく。明日は、午前9時30分に庁舎玄関前を出発し、ガレリアかめおかの現地視察を行う。市役所へ戻り、時間があれば予算に上がっている庁舎修繕箇所を視察するのでよろしくお願いする。

10:20